

高次脳機能障害支援センター だより

Vol. 9

2020年10月1日

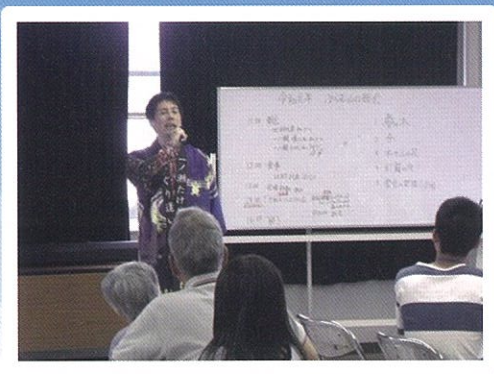
発行



特集



- お知らせ
- 令和元年度の活動実績
- 令和2年度の活動計画
- 本人の声
「私のアルジャーノンに花束を」
- 家族の呟き
- 書籍紹介



高次脳機能障害とは

病気（脳梗塞や脳腫瘍等）や怪我などにより、脳が損傷することで起こる、もの忘れ（記憶障害）、同時に二つのことができない（注意障害）、段取りを立てるのが苦手（遂行機能障害）、いろいろな感情的になりやすくなった（社会的行動障害）などの認知障害を要因として、日常生活及び社会生活の適応に困難を生じるようになる障害のことをいいます。

この障害は、外見からはわかりにくく、本人自身が自覚しづらいため、家族や周囲の人からも理解されにくいことがあります。当センターや医療機関のケースワーカー、地域の相談窓口から、各種の制度や福祉サービスの情報を得ることが出来ます。各種制度や福祉サービスを利用することで、生活障害の負担軽減が図ることが出来ます。

高次脳機能障害支援センターの支援内容

① 相談窓口

医療・福祉サービスの利用、療養や復学、仕事などの相談に対応します。

② 地域支援

生活や仕事に関するご相談には、居住する地域の関係機関、就労支援機関と連携して相談に応じています。

③ 交流の場

家族会と協力して、ご本人やご家族の交流・情報交換の場を定期的に設けています。

④ 診断

こころの医療センター「高次脳機能外来」と連携を図り、受診相談、手帳や障害年金等の手続の支援を行っています。受診や検査には別途費用が必要です。

⑤ 普及啓発・研修

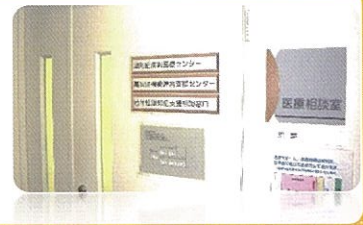
パンフレット等の作成配布や講習会（一般の方対象）、研修会（支援者対象）を企画開催しています。要望に応じて講師派遣も行っています。



お知らせ

令和2年5月1日より高次脳機能障害支援センター窓口の開設時間が変更となりました。

平日（祝日除く） 9:00～17:00



令和元年度実績

アセスメント研修会

令和元年11月9日（土）に当院にて、医療機関や障害者支援機関の相談員、介護支援専門員を対象に、アセスメント研修会を実施しました。講師に松山リハビリテーション病院 山下 泰治先生（医師）、伊賀上 舞先生（支援コーディネーター）をお招きし、午前中は講義とグループワーク、午後は事例検討を行いました。

「高次脳機能障害の特性を知り、明日の支援に繋げる～障害の理解と対応、支援について～」とのテーマで、高次脳機能障害の特性や対応方法、利用できる社会資源、家族支援など、幅広い内容を学ぶ機会になりました。

参加者の方からは「多職種でのグループワーク中心だったので、様々な視点で支援を考える事が出来た」「長期的に支援するために、それぞれの機関がどう連携していけばいいか分かった」等のご意見を頂きました。



高次脳機能障害 リハビリテーション講習会



令和元年10月12日（土）に、日本損害保険協会の助成を受けて開催しました。当事者、家族、地域の方、支援者等、215名の方が参加されました。

講演①では、NPO法人宝塚高次脳機能障害者共生の会 宮原 智子先生より、当事者・家族が主体的に生活するための支援について、地域活動支援センターWakabaの取り組みを中心にお話頂きました。

講演②では、慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室教授 三村 将先生より、社会的行動障害について、最新の研究や介入方法を中心にお話頂きました。

やまぐちリハビリの会

高次脳機能障害の方の当事者の会・家族の会を、2か月に1回の頻度で、山口市の山口県身体障害者福祉センターにて行いました。

当事者の会では、注意機能や記憶機能のリハビリ要素を盛り込んだレクリエーションを通して、楽しみながら障害への気づきを高め、お互いの親睦を深める活動を行いました。

家族の会では、座談会形式の気軽な集まりの中で、障がいの捉え方をはじめ、家庭生活における対応の仕方や工夫を共に考える場になっています。



令和2年度活動計画

今年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から高次脳機能障害リハビリテーション講習会を中止する事になりました。また、今後、予定している計画に関しましても県内の感染状況によって中止と判断する場合がございます。下記の行事には申込が必要です。ご希望する研修等がございましたら、高次脳機能障害支援センターにご連絡ください。

日付	行事	場所	備考
令和2年11月6日(金)	周南圏域事例検討会	徳山リハビリテーション病院	感染対策のため、参加機関の選定を行います。
令和2年11月15日(日)	やまぐちリハビリの会	山口県身体障害者福祉センター	新規の方の場合、事前面談有り
令和2年12月20日(日)	神経心理学的検査研修会	WEB会議形式 (Zoom使用)	支援者対象
令和3年1月17日(日)	やまぐちリハビリの会	山口県身体障害者福祉センター	新規の方の場合、事前面談有り
令和3年3月14日(日)	やまぐちリハビリの会	山口県身体障害者福祉センター	新規の方の場合、事前面談有り

本人の声

私の「アルジャーノンに花束を」

ペンネーム：妙

高次脳機能障害になって今年で12年になる。51歳の時の脳血管障害で記憶障害と失語症の後遺症が残った。最初は娘に幼稚園の子みたいと言われたが、周囲の人との関係の中で成長していった。バスに乗れなかったが、友人から「迷子になったときに警察のお世話になって何とか山口に帰れた」という話を聞き、日本にいれば会話も通じるし、何とかなるんじゃないかと思った。何度間違えてもチャレンジし続けて、何とか一人でバスに乗れるようになった。買い物も何を買ったら良いかわからなかったが、障がいのことを理解してもらった上で食育の会に行くようになり、繰り返し同じことを教えてもらえたことで、体にどんな食べ物が良いかが分かるようになった。



よき理解者の存在が、私の助けになっている。見た目が普通の分、障がいのことを知らない人にきついことを言われ、落ち込むことがあった。現在の職場は、発症前から勤めていたため、職場の方に病気のことを伝えると、高次脳機能障害について職員間で勉強会を開いてくれ、自分の障害を踏まえた対応をしてくれるようになった。また、この人にわかってほしいと思う人には「忘れやすいから何度も言ってね。必要なことだったらCメールに送ってくれたら後で確認して思い出す手掛かりになるよ」など、こうしてもらったらできるということを伝えるようにしている。ケアマネさんやヘルパーさん、友人などカバーしてくれる人がいることが心強い。

自分にとっての心のケアとなるものを持っておくことが大事。記憶障害になって、体で覚えるリハビリを行うことで、覚えてなくても自然に体が動くことがあった。近所に住む伯母に折り紙のプレゼントを作ってもらったのがとても嬉しかったため、体が覚えるまで繰り返し同じ折り紙や小物を作るようにしている。作ったものをやまぐちリハビリの会のみんなにプレゼントして喜んでもらっている姿を見ると自分が生きているという意味を実感することが出来る。職場の方やヘルパーさんも支えになってくれているが、一番は障害を抜きにして普通に接してくれる方との会話が心のケアになっていると思う。病気であったことを忘れて楽しむことが出来る。また、心と体が元気で過ごせることを考えて、体に良い食べ物を取るように心がけている。

同じ悩みを持つ方に伝えたい

最初は、疲れるかもしれないけど、休みながらあきらめずに挑戦し続けることが大事。かと言って無理して訓練したり、嫌なことをしたりする必要はない。自分なりの負担のない流れ(工夫)を見つけていく。好きなことを頑張ることは、達成した喜びを得ることが出来るから。



リハビリの会
参加者の安全を
願ってのお守り

交通安全



細かな
作業に
敬服しま
す☺

家族の呟き

高次脳機能障害ぷらむ山口 北村勝彦

● 平成14年7月31日、次女真理子大学2年生。夏休みに神戸より自動車運転免許取得のために帰省した。たまたま中学校時代の友人2名と再会し、夜のおしゃべり会をし、友人運転の軽自動車ですぐ帰宅途中、ブロック塀に衝突し地元の病院に救急搬送され、脳挫傷、骨盤骨折と診断された。その後、広島県内のリハビリ中心の病院を転々とし、広島県立身体障害者リハビリテーションセンターの丸石医師より高次脳機能障害であると聞かされた。

平成16年3月、自宅に帰り、夫婦ともに早期退職し、真理子中心の生活を送るも周囲には高次脳機能障害という症状について行政を含め理解が薄く日々悶々とした毎日を過ごしていた。

そんな中、周南市の貞弘元美さん中心の家族会の存在を知り何かと相談。平成19年5月、家族間の情報交換、状況報告を中心とした脳外傷ぷらむ山口（現在の高次脳機能障害ぷらむ山口）を設立し、定例会や同時に開催されるやまぐちリハビリの会に親子で参加するようになった。特に仲間との触れ合いが毎回楽しみで、又、今年はコロナ禍の影響で日本高次脳機能障害友の会全国大会は中止となったが、来年は全国の仲間や友人との再開を楽しみに生活しています。



書籍紹介

「脳コワさん」支援ガイド 著者：鈴木大介

「脳コワさん」聞き慣れない言葉ですが、当事者である鈴木さんは「病名や受傷経緯が違っても、『脳の情報処理』で苦しんでいる人」としてそう呼んでいます。

目には見えない脳のトラブルを、分かりやすい絵や文章で伝えてくれています。

支える側・支えられる側、どちらも楽になる道筋を見出すきっかけになる1冊です。



高次脳機能障害 『ぷらむ』山口

● 高次脳機能障害を背負った当事者・家族の集まりです。当事者交流会（やまぐちリハビリの会共催）の他、家族同士で情報を交換し、障害の理解を深め、ともに支え合う場を作る目的で家族会を開催しています。

『ぷらむ』=『ウメの木』は、高次脳機能障害の方が懸命に回復するべく、冬の時代を思わせるリハビリを頑張り、春の時代が来るべき時に、一人一人の内在している素晴らしい個性が開花し、周りの人たちの心を和ませることができることを念願し命名されました。



入会の問合せ先
代表 北村 勝彦
連絡先 0820-22-2204

山口県立こころの医療センター 高次脳機能障害支援センター

平日（祝日除く） 9:00~17:00

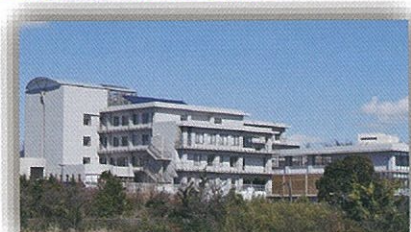
〒755-0241

山口県宇部市大字東岐波4004-2

TEL 0836-58-1218（直通）

FAX 0836-58-6503

HP <https://y-kokoro.jp/>



交通アクセス

- JR宇部線 「丸尾駅」より徒歩15分
- 宇部市営バス 「東岐波中学校前」（ローソン横）より徒歩10分

